

AXIS Fence Guard 侵入検知

AXIS Fence Guardを使用すると、カメラの画角内に仮想的なフェンスを設定し、特定エリアを侵入から保護できます。このアプリケーションは、人や車両などの移動する物体がユーザーが定義した仮想的なラインを超えたことを検知すると、アラームを自動的にトリガーします。複数のプロファイルを使用して、異なる「フェンス」を設定することができるため、日中と夜間で異なる設定にすることができます。フィルターと奥行きの設定は、誤報の低減に役立ちます。ライブまたは録画映像のアラームオーバーレイは、アラームをトリガーしている物体を明確にします。AXIS Fence Guardは、オフィス、店舗、車庫などの営業時間外の監視に最適です。

- > ライン横断検知
- > エッジベースのビデオ分析
- > 複数のプロファイルによる高い柔軟性
- > 奥行きの設定による誤報の低減
- > 境界ボックスアラームオーバーレイ



AXIS Fence Guard

概要

代表的な使用事例

オフィスビル、工業施設、車庫などのフェンスで囲まれたエリアでの就労時間外の監視といった、交通量の少ない一般的なエリア

対応デバイス

ファームウェア7.10以降を搭載したAxisビデオ製品。

コンピューティングプラットフォーム Edge

設定

Webの設定には次のものが含まれます。

言語

英語、ドイツ語、フランス語、ポーランド語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、簡体字中国語、繁体字中国語、日本語、韓国語、ポルトガル語

機能

シナリオ

さまざまなシナリオに適応するように、複数のプロファイルを設定できます。
最大3つの同時プロファイルを持つマルチチャンネル製品を除く、すべてのカメラで最大10個のプロファイル。
プロファイルごとに1つの仮想フェンス (角は10箇所まで)
映像による設定確認
小さな物体または一時的な物体フィルター
奥行きの設定

制限

豪雨や豪雪、低コントラストなどの条件により、検知精度が低下する場合があります。詳細については、axis.comでユーザーマニュアルを参照してください。
アラームオーバーレイを有効にしたビデオストリームの解像度は、幅1920ピクセルおよび現在のアスペクト比に応じた高さに制限されます。

システムインテグレーション

アプリケーションプログラミングインター フェース

VAPIX®、AXIS Camera Application Platformなど、ソフトウェア統合のためのオープンAPI (仕様についてはaxis.comを参照)

イベント マネジメント

カメラと統合して、ビデオ管理システム (VMS) へのイベントストリーミングのほか、I/O制御、通知、エッジストレージなどのイベントアクションが可能です。
ONVIF® motion alarm event (参照: ONVIF Service Imaging Specification)

メタデータ

選択した1つのビデオ解像度のアラームオーバーレイは、アラームをトリガーした物体を境界ボックスで囲みます。